

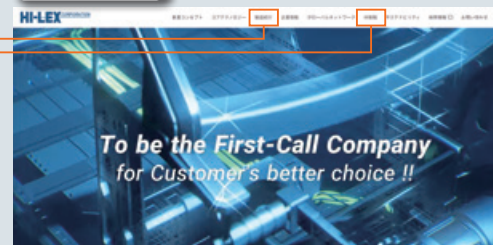
## ■ 株主メモ

事業年度	毎年11月1日から翌年10月31日まで
定時株主総会	1月中
基準日	
定時株主総会 期末配当金	10月31日
中間配当金	4月30日
公告方法	電子公告とし、当社ホームページに掲載いたします。 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載URL：https://www.hi-lex.co.jp/
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00 (土日休日除く)
・住所変更、単元未満株式の買取のお申出先について	株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
・未払配当金の支払について	株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
(各種手続のご案内)	URL https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
上場取引所	東京証券取引所 スタンダード市場
単元株式数	100株

## ホームページのご案内

当社のホームページでは、IR情報をはじめとして、各種情報を公開しておりますのでご覧ください。

トップページ



製品紹介



IR情報


<https://www.hi-lex.co.jp/>

## HI-LEX 株式会社ハイレックスコーポレーション

〒665-0845 兵庫県宝塚市栄町一丁目12番28号  
TEL 0797-85-2500 (代)  
URL https://www.hi-lex.co.jp/



# HI-LEX

## 株主通信 | 第80期報告書

2022年11月1日から2023年10月31日まで

株式会社ハイレックスコーポレーション

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社グループの第80期事業年度（2022年11月1日から2023年10月31日まで）が終了いたしましたので、その概況をご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2024年1月

代表取締役社長  
寺浦 太郎



Q 当期の業績について

A 半導体の供給不足や部品供給の停滞が緩和され、増産となりました

当連結会計年度における世界経済は、新型コロナウイルス感染症による影響が緩和される中、経済活動の正常化が着実に進んでおり、国内においても感染対策と経済活動の両立が進められ、全体として緩やかな回復基調となっております。一方、新たな変異ウイルスによる感染状況の動向や金利上昇による世界経済の減速、世界的な半導体不足の長期化や資源価格の上昇による景気不振リスク、米中間の通商問題を巡る緊張、米国におけるインフレの急拡大、中国経済の成長鈍化、ロシアによるウクライナ侵攻等、依然として不透明な状況が続いており、世界経済の不確実性は増すばかりとなっております。

自動車業界におきましては、半導体の供給不足や部品供給の停滞が緩和される中で自動車メーカーの生産は回復基調となっており、日本国内の自動車生産台数は前年同期比13.0%増の862万台、米国では同8.1%増の1,070万台、中国では同3.6%増の2,842万台となりました。

当連結会計年度の経営成績は、主に半導体の供給不足の緩和等に伴う自動車メーカーの生産増加に伴い、米国・韓国・日本を中心に中国を除くセグメント全般において前年同期比で伸長し、また円安による邦貨換算額の増加影響もあり、売上高は2,986億2千3百万円（前年同期比430億6百万円増、16.8%増）となりました。

営業損益は、原価低減、生産性向上並びに経費削減等の合理化による収益の確保や、各グループ会社での販売価格改定を始めとした利益改善の取り組みを進めたことにより、29億8千万円の営業利益（前年同期は48億5千6百万円の営業損失）となりました。

経常損益は、主に受取利息、受取配当金及び持分法による投資損益等を収益に計上した一方で、支払利息及びデリバティブ評価損等を費用に計上したことにより、53億2千7百万円の経常利益（前年同期は24億7千4百万円の経常損失）となりました。親会社株主に帰属する当期純損益は、主に特別利益において固定資産売却益を計上し、特別損失において減損損失、関係会社株式評価損及び製品保証引当金繰入額等を計上したことから、29億9千1百万円の親会社株主に帰属する当期純損失（同71億2千万円の親会社株主に帰属する当期純損失）となりました。

事業紹介



自動車分野

コントロールケーブル、ウインドレギュレータといった当社の主力製品は、高い耐久性や信頼性、コンパクトな構造など優れた特長があり、自動車の機能部品として採用されております。



船舶・ボート分野

当社の船舶用コントロール・ボックスは耐久性、耐蝕性にも優れ、レジャーボートや漁船分野では60%のシェアを確保しております。また、ジェットボートや高速艇などの分野にも進出しております。



建設機器・産業機器分野

当社では、アクセルアクチュエータを利用し、作業モードと低燃費モードを調整することで、エネルギーロスを抑えたコントロールケーブルシステムを建設機械用に提供しております。

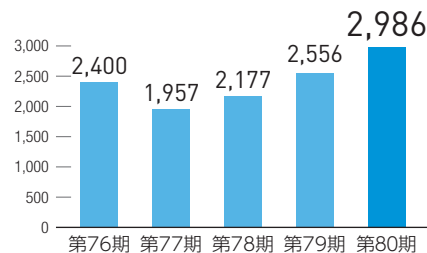


福祉・住宅関連分野

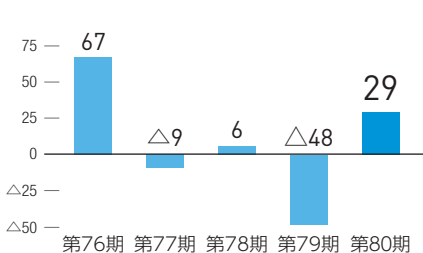
ユーザー様、お客様の幸せな暮らしを少しでもサポートするために、当社独自の技術を駆使し、福祉・住宅関連の商品を提供しております。

連結財務ハイライト

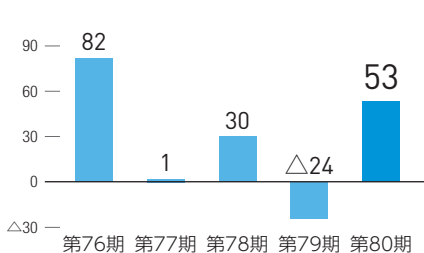
売上高 (単位: 億円)



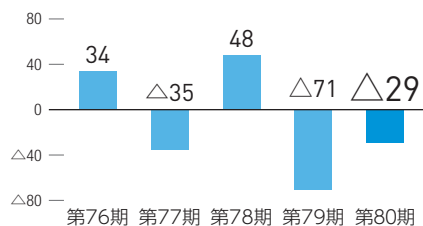
営業利益又は営業損失(△) (単位: 億円)



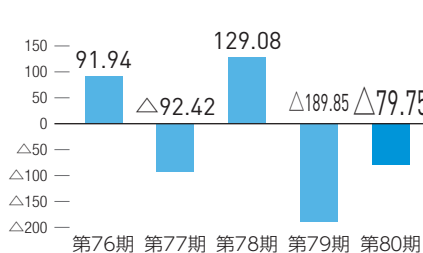
経常利益又は経常損失(△) (単位: 億円)



親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△) (単位: 億円)



1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△) (単位: 円)



第81期 連結業績予想

売上高 ..... 2,942億円  
 営業利益 ..... 45億円  
 経常利益 ..... 62億円  
 親会社株主に帰属する当期純利益 ..... 39億円  
 1株当たり当期純利益 ... 103円96銭

Q 各セグメント別業績について

A 日本・北米・アジアで増益、中国で減益となりました

各地域別での世界経済は、日本、北米においては、原価低減と生産性改善に取り組んだ影響により、アジアにおいては、韓国子会社を中心とした増収に伴う操業度の改善効果により、それぞれ増益となりました。中国においては、原価低減と生産性改善に取り組んだものの、減収に伴う操業度の低下及び材料コストの高止まり等の影響により減益となりました。欧州においては、主にハンガリー・イタリア子会社を中心とした価格戦略の見直し等による収益力改善により、南米においては、生産拡大に伴う操業度上昇による改善効果により、それぞれ損失額が減少しました。

Q 当期の配当について

A 期末配当金は1株当たり17円00銭とさせていただきます

当社は、利益配分につきましては、株主の皆様にとっての収益性と今後の収益予想や将来の事業展開等を考慮し、長期的な安定配当を維持していくことを基本方針としております。当期の配当については、経営体質の強化と今後の事業展開を勘案し、内部留保及び連結での配当性向にも意を用いた結果、1株当たり17円00銭とし、中間配当金と合わせて通期では34円00銭とさせていただきます。

トピックス

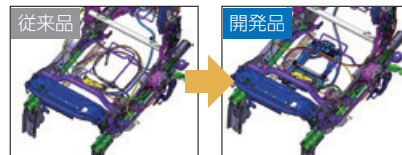
冠動脈形成術用ガイドワイヤ新製品販売

狭くなった心臓の動脈（冠動脈）を拡げる治療（経皮的冠動脈インターベンション）向けのガイドワイヤをリニューアル致します。ガイドワイヤの性能として求められるトルク伝達性と末梢到達性を大幅に向上させるとともに、現在環境面で問題視されているフッ素樹脂の代替となる撥水・抗血栓性コーティングを採用致しました（販売名「HLガイドワイヤ4」、承認番号30400BZX00298000）。臨床試用評価では医師の皆様から高い評価を頂いており、2023年11月より販売しております。これからも安全性と性能だけでなく環境面にも配慮した製品を開発してまいります。



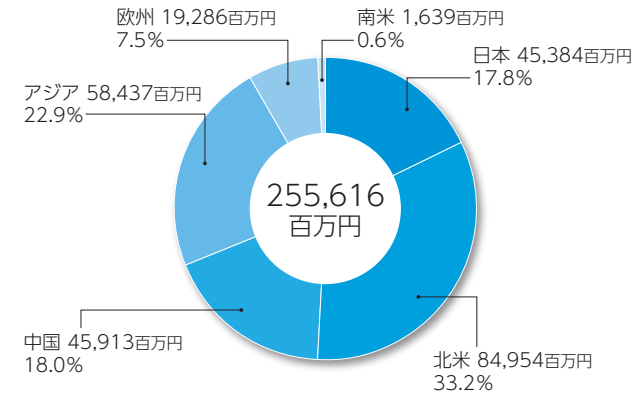
世界初のシートモジュール量産化成功

自動車のシートアレンジの多様化により、シート内に多数のケーブルが組付けられ複雑化しています。これにより、顧客メーカー様の設計・組立工程で多大な工数がかかっていました。弊社はケーブルの専門メーカーとして本課題に向き合い、2023年8月に世界初となるシートモジュールの量産化に成功致しました。モジュール化によってケーブルの取り扱いが容易となり、顧客メーカー様の工数削減に貢献しております。

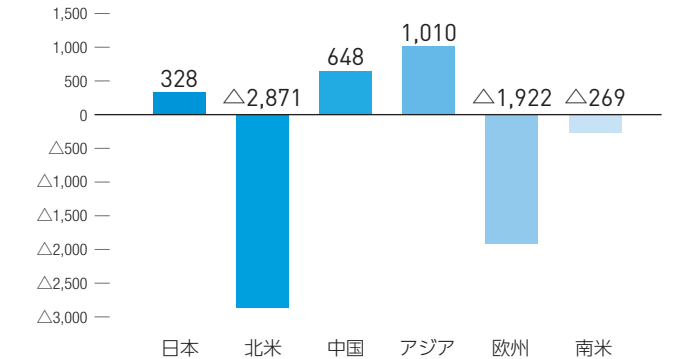


前連結会計年度 (2021年11月1日から2022年10月31日まで)

売上高



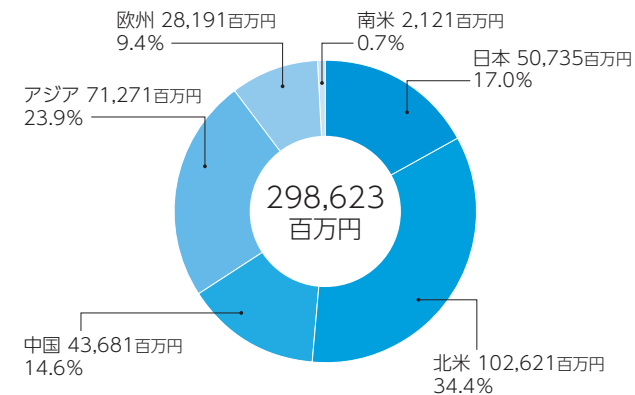
セグメント利益又は損失(△) (単位：百万円)



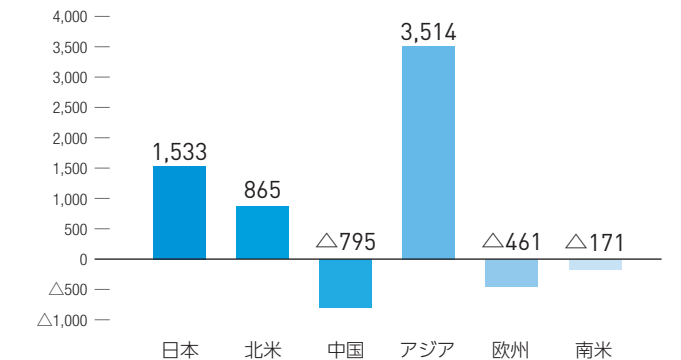
注) 各セグメント利益又は損失の合計額と連結損益計算書の営業損失との差額の主な内容は、全社費用及びセグメント間取引の調整であります。

当連結会計年度 (2022年11月1日から2023年10月31日まで)

売上高



セグメント利益又は損失(△) (単位：百万円)



注) 各セグメント利益又は損失の合計額と連結損益計算書の営業利益との差額の主な内容は、全社費用及びセグメント間取引の調整であります。

# “世界最高水準の技術と製品を全世界へお届けするために”、 グローバルネットワークを構築し、現地生産体制を推進しています。

ユーザーの近くで最高水準の製品を提供するために――。

私たちは積極的な海外展開を図り、現地における生産体制の拡充を推進してきました。

アメリカ、メキシコ、ブラジル、ドイツ、イタリア、スペイン、ハンガリー、ロシア、中国、韓国、インド、インドネシア、ベトナム、タイ、チェコ、セルビアの世界16ヶ国に拠点を展開しております。

最高水準の技術を提供するグローバルネットワークを活用して  
世界ブランド「HI-LEX」「TSK」をさらに大きく育ててまいります。

(2024年1月現在)



HI-LEX CONTROLS INC.  
LITCHFIELD PLANT (U.S.A.)



HI-LEX CONTROLS INC.  
HUDSON PLANT (U.S.A.)



DAEDONG HI-LEX OF  
AMERICA INC. (U.S.A.)



HI-LEX AMERICA INC. (U.S.A.)  
HI-LEX AUTOMOTIVE CENTER  
(U.S.A.)



HI-LEX MEXICANA,S.A.DE C.V.  
(MEXICO)  
DAEDONG DOOR MEXICO S.  
DE R.L. DE C.V. (MEXICO)



重慶海徳世控制拉索系統有限公司  
(CHINA)



長春海徳世汽車拉索有限公司  
(CHINA)



広東海徳世拉索系統有限公司  
(CHINA)  
広州利時徳控制拉索有限公司  
(CHINA)



本社 (JAPAN)

国内グループ11社

- 出石ケーブル(株)
- (株)ハイレックス埼玉
- (株)ハイレックス島根
- (株)ハイレックス関東
- (株)サンメディカル技術研究所
- 但馬ティエスケイ(株)
- (株)ハイレックス宮城
- (株)ハイレックスメディカル
- (株)EVIジャパン
- 丹波ケーブル(株)
- 京丹TSK(株)



HI-LEX DO BRASIL LTDA.  
(BRAZIL)



HI-LEX HUNGARY CABLE  
SYSTEM MANUFACTURING LLC  
(HUNGARY)  
HI-LEX RUS LLC (RUSSIA)  
HI-LEX EUROPE GMBH  
(GERMANY)



HI-LEX ITALY S.P.A. (ITALY)



HI-LEX AUTO PARTS SPAIN,S.L.  
(SPAIN)



HI-LEX CZECH, S.R.O.  
(CZECHIA)



煙台利時徳拉索系統有限公司  
(CHINA)  
杭州海徳世拉索系統有限公司  
(CHINA)  
天津海徳世拉索系統有限公司  
(CHINA)



江蘇大同海徳世車門系統有限公司  
(CHINA)  
江蘇大同多沃汽車配件有限公司  
(CHINA)



HI-LEX INDIA PRIVATE LTD.  
(INDIA)  
HI-LEX DOOR INDIA PRIVATE  
LIMITED. (INDIA)



HI-LEX SERBIA D.O.O. (SERBIA)



韓国TSK株式会社 (KOREA)



大同ハイレックス株式会社  
(KOREA)  
大同ドア株式会社 (KOREA)



株式会社大同システム (KOREA)



重慶海徳世拉索系統集團有限公司  
(CHINA)



PT. HI-LEX INDONESIA  
(INDONESIA)



PT. HI-LEX PARTS INDONESIA  
(INDONESIA)  
PT. HI-LEX CIREBON  
(INDONESIA)



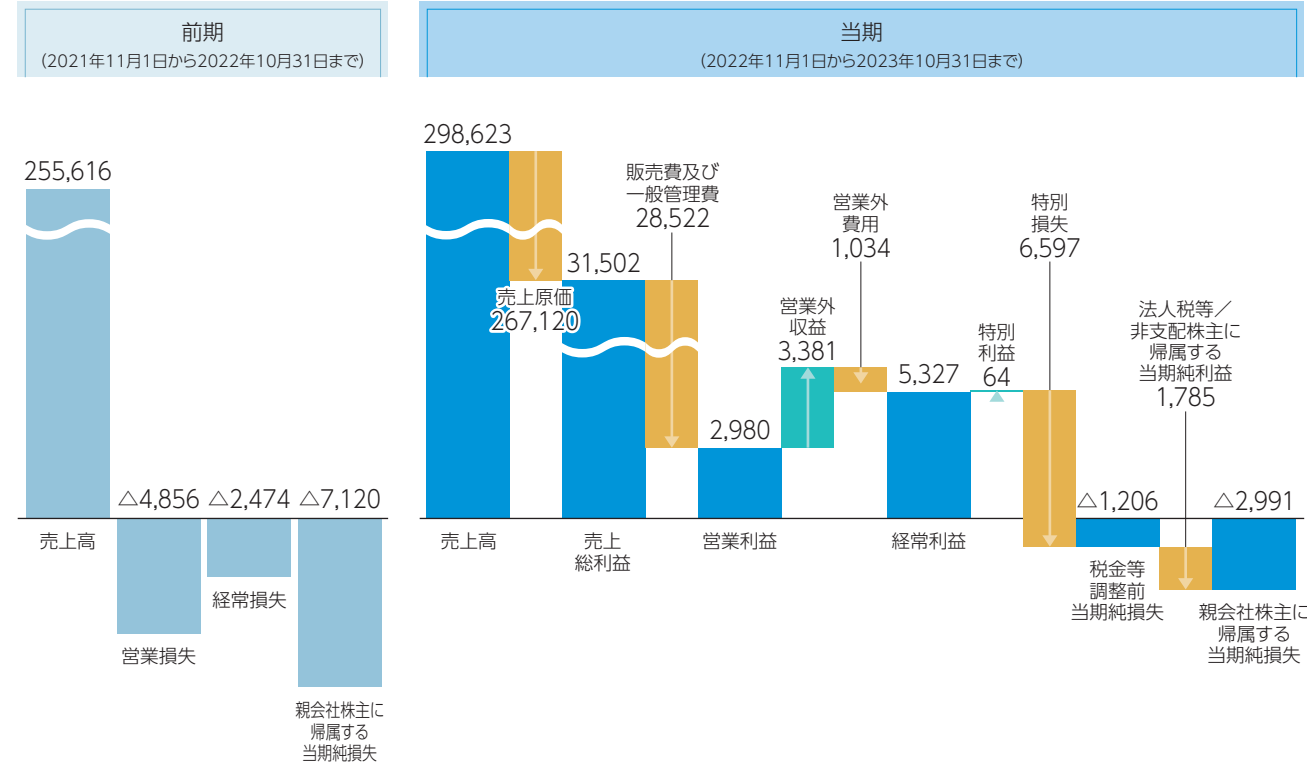
HI-LEX VIETNAM CO.,LTD.  
(VIETNAM)



THAI STEEL CABLE PUBLIC  
COMPANY LIMITED  
(THAILAND)

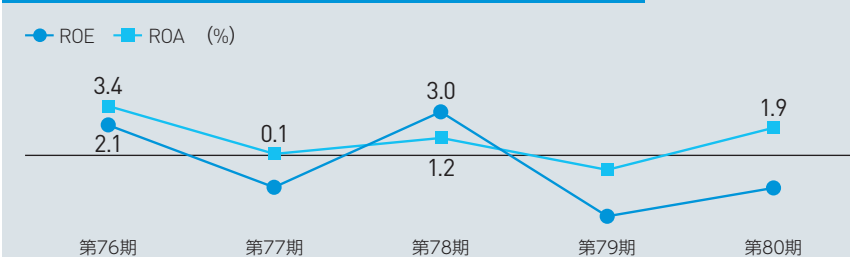


連結損益計算書の概要 (単位：百万円)



※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

ROE(自己資本利益率)・ROA(総資産利益率)の推移

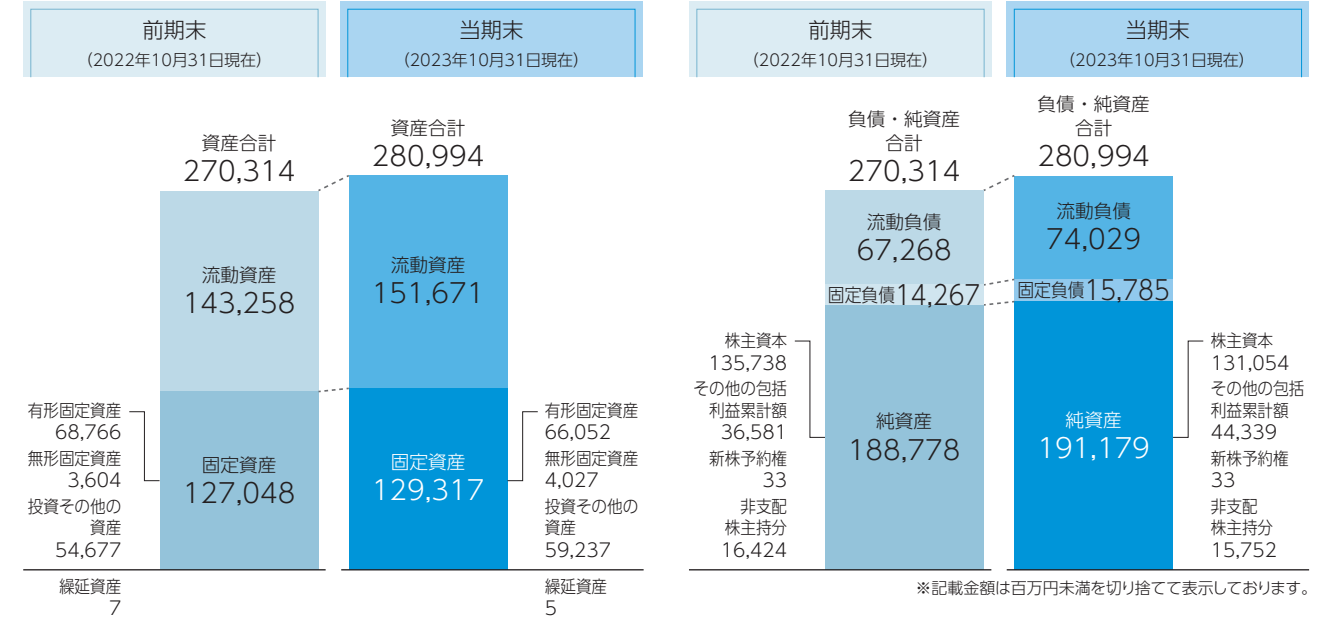


$$ROE = \frac{\text{親会社株主に帰属する当期純利益}}{\text{自己資本(期首・期末の平均)}}$$

$$ROA = \frac{\text{経常利益}}{\text{総資産(期首・期末の平均)}}$$

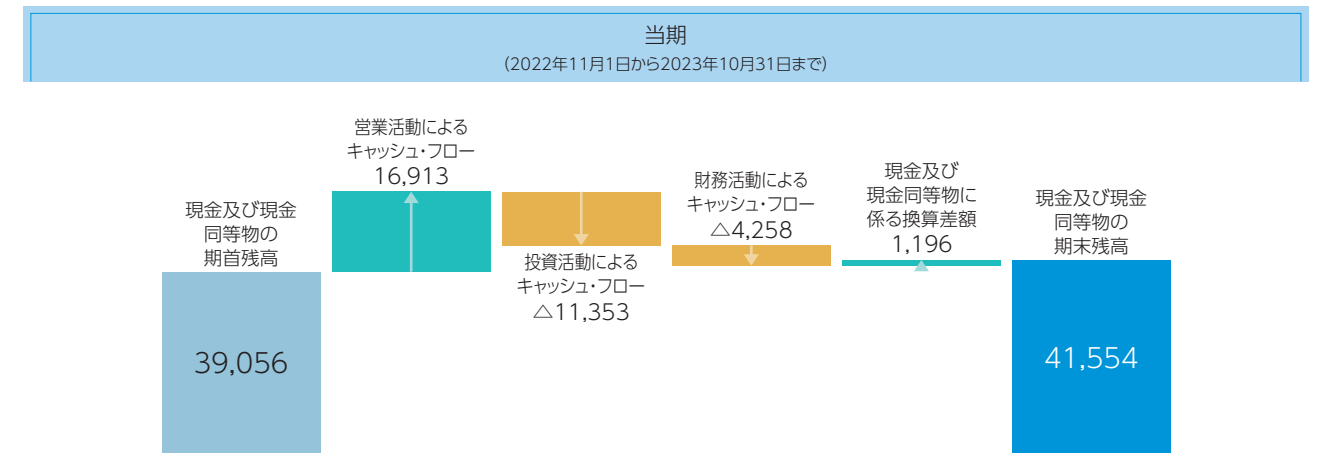
注) 第77期、第79期及び第80期のROEについては、親会社株主に帰属する当期純損失を計上しているため記載しておりません。第79期のROAについては、経常損失を計上しているため記載しておりません。

連結貸借対照表の概要 (単位：百万円)



※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)



※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 事業所

(2024年1月現在)

国内

医療機器事業部、三田工場、三田西工場、  
柏原工場、三ヶ日工場（浜松営業所）、  
宇都宮技術センター（宇都宮営業所）、  
東京営業所、名古屋営業所、広島営業所

海外

アメリカ、メキシコ、ブラジル、  
ドイツ、イタリア、スペイン、  
ハンガリー、ロシア、中国、韓国、  
インド、インドネシア、ベトナム、タイ、  
チェコ、セルビア

■ 連結子会社等

(2024年1月現在)

出石ケーブル株式会社  
株式会社ハイレックス島根  
株式会社ハイレックス埼玉  
株式会社ハイレックス関東  
株式会社サンメディカル技術研究所  
但馬ティエスケイ株式会社  
株式会社ハイレックス宮城  
株式会社ハイレックスメディカル  
TSK of AMERICA INC.  
HI-LEX AMERICA INC.  
HI-LEX CONTROLS INC.  
DAEDONG HI-LEX OF AMERICA INC.  
HI-LEX MEXICANA,S.A.DE C.V.  
DAEDONG DOOR MEXICO S. DE R.L. DE C.V.  
HI-LEX HUNGARY CABLE SYSTEM MANUFACTURING LLC  
HI-LEX RUS LLC  
HI-LEX EUROPE GMBH  
HI-LEX AUTO PARTS SPAIN,S.L.  
HI-LEX ITALY S.P.A.  
HI-LEX CZECH, S.R.O.  
HI-LEX SERBIA D.O.O.

韓国TSK株式会社  
大同ハイレックス株式会社  
大同ドア株式会社  
重慶海德世拉索系統集团有限公司  
重慶海德世控制拉索系統有限公司  
長春海德世汽車拉索有限公司  
広東海德世拉索系統有限公司  
広州利時徳控制拉索有限公司  
杭州海德世拉索系統有限公司  
煙台利時徳拉索系統有限公司  
江蘇大同海德世車門系統有限公司  
江蘇大同多沃汽車配件有限公司  
海德世汽車部件(瀋陽)有限公司  
天津海德世拉索系統有限公司  
HI-LEX INDIA PRIVATE LTD.  
HI-LEX DOOR INDIA PRIVATE LIMITED.  
HI-LEX VIETNAM CO.,LTD.  
PT. HI-LEX INDONESIA  
PT. HI-LEX PARTS INDONESIA  
PT. HI-LEX CIREBON  
HI-LEX DO BRASIL LTDA.

■ 会社の概要

(2023年10月31日現在)

商号 株式会社ハイレックスコーポレーション  
設立 1946年11月  
資本金 56億5,705万6,150円  
代表 代表取締役社長 寺浦 太郎  
従業員数 981名  
(従業員数には、出向者は含んでおりません。)

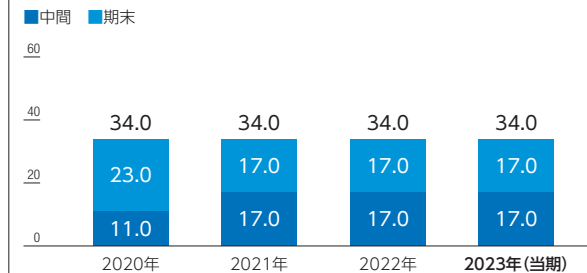
■ 役員

(2023年10月31日現在)

代表取締役社長 寺 浦 太 郎  
取締役 正 木 靖 子  
取締役 加 藤 徹  
取締役 赤 西 芳 文  
取締役 吉 川 博 巳  
常勤監査役 松 本 耕 一  
監査役 小 林 佐 敏  
監査役 太 田 克 実  
監査役 上 田 隆 司

取締役 正木靖子、取締役 加藤徹、取締役 赤西芳文及び取締役 吉川博巳の4氏は社外取締役であります。  
監査役 小林佐敏、監査役 太田克実及び監査役 上田隆司の3氏は社外監査役であります。  
当社は取締役 正木靖子、取締役 加藤徹、取締役 赤西芳文、取締役 吉川博巳、監査役 小林佐敏、監査役 太田克実及び監査役 上田隆司の7氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

■ 配当金の推移 (単位：円)



■ 株式の状況

(2023年10月31日現在)

発行可能株式総数 80,000,000株  
発行済株式の総数 38,216,759株  
(自己株式671,479株を含む)

株主数 4,012名

■ 大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
寺浦興産株式会社	9,915	26.40
公益財団法人寺浦奨学会	1,554	4.13
日本生命保険相互会社	1,259	3.35
西川ゴム工業株式会社	1,034	2.75
ビービーエイチ フォー フィデリティ ロー プライズ ストック ファンド (プリンシパル オール セクター サポートフォリオ)	980	2.61
本田技研工業株式会社	850	2.26
ビーエヌワイエム アズ エージーティ クライアンス 10 パーセント	843	2.24
株式会社アルファ	806	2.14
株式会社三菱UFJ銀行	739	1.97
ハイレックス企業持株会	714	1.90

(注) 持株比率は自己株式 (671,479株) を控除して計算しております。

■ 分布状況

